



有限会社川原代自動車電機工業所

評価の
ポイント

小規模企業におけるキャリア支援を
通じた従業員の意欲向上

わが社における「グッドキャリア」とは

社員一人一人がのびのびと働ける職場の環境づくり、毎日の会話（コミュニケーション）づくりに注視し若い人財を雇用し育成しながら、指導側も共に学び、社内の活性化を図り、従業員満足度向上に努める事だと思います。

それにより、お客様に満足していただき、さらに社員の『やりがい』を深め、社員全員が地域に貢献し、自己啓発のできる会社づくり、人づくりだと思います。

経営者より
メッセージ

当社の経営理念に基づき、地域経済の発展に貢献し、地元茨城（竜ヶ崎）での受賞はたいへん誇らしく、また励みになります。今後もこの受賞を糧に、人づくり、さらに町づくりに力を注ぐ企業でありたいと思います。

代表取締役
湯沢 文一



企業概要

事業概要	主たる業務は自動車総合整備、自動車部品（電装品、ディーゼル車補機製品等）の販売・取付・修理等。取引の半数は、大手自動車ディーラー様からの外注修理であり、乗用車から運送業者、建設業者が所有するトラックやバスなど、ガソリン車～大型ディーゼル車迄を対象としている。
業種	自動車整備業
所在地	茨城県竜ヶ崎市
従業員数	12人（男性8人/女性4人、うち非正規雇用1人）
平均年齢	41歳
創業年	1967年

キャリア 形成支援 担当者紹介

氏名	<small>ゆざわ ふみかず</small> 湯沢 文一
部署名	代表取締役
担当年数	15年
キャリア形成支援の取組を担当して良かったこと	社員が劇的に成長してくれたことです。
キャリア形成支援の取組で苦労したこと	個々の意識改革や、少人数の企業の為、時間の捻出などです。

具体的な取組

効果表導入・半期面談実施から着実に始めるキャリア支援

職能と職種別技能の両面をバランス良くワンシートで纏めた分かり易い等級別の考課表(評価基準)を用意し、これをベースにした各種管理表により、全従業員が自己評価や個人目標の申告、目標のPDCA型管理を日々行い、従業員自身が主体的にキャリア形成について考えております。また半期ごとに社長(私)と面談を行う事で、評価と目標設定を客観化し、会社の目標と調整を図っております。

また、新人研修、マナー研修、リーダーシップ研修など、株式会社エフアンドエム(コンサルティングサービス)の研修サービスを活用し、従業員に経営能力育成や社会人育成を受講させており、この機会に専門的な視点から、キャリアの問題も相談できるようにしています。社長(私)自身もこのコンサルティングサービスを活用し、評価者訓練研修、リーダーシップ研修を通じ、ビジネススクールを卒業しました。

取組の効果

従業員の意識・やりがい向上と業績への反映

サービス技術の向上、顧客対応力等の向上、資格取得にも積極的に取り組んでおり、技術、職能ともにさらに向上しております。また、自らの課題を的確に把握している為、どのように解決すべきかも自分自身で考えられています。半期ごとの自己の管理サイクルの中で課題を掲げ、弱点を克服し、一人ひとりが成長していることを実感しています。その結果、従業員が意識を高め、やりがいを持ち、これが業績にも反映(月平均売上 H26年/1698万円、H27年/1789万円、H28年/1981万円)しております。

★ 今後の課題と展望

当社のキャリア支援の評価と課題創出のため、従業員アンケートを実施致しました。その結果、業績の向上をやりがいと感じているとともに、これに伴い業務の負担が高まっており、休暇が取りにくくなるなど従業員の不満も多いことが分かりました。このため、休暇の取り易い職場の労働環境の整備が急務だと考えています。

また、今後、若者が夢を持てる会社づくりを推進する必要があるため、新卒者を積極的に採用し、仕事をしながら能力育成ができる職場環境を整え、将来を見据えて安心して働け、生きる事が出来る受け皿となり、全従業員の仕事だけでなく、個々の生活、人生に配慮した制度を充実させます。現在女性従業員の1人もキャリアアップ支援を受ける準備をしております。6ヵ月間の教育を重ね、成長して頂き正社員化する予定でおります。

皆が帰属意識とモチベーションを高め、自己啓発を促し人生計画を創出できる人材づくり・会社づくりを目指しております。

★ 社員の声

未経験の職種に携わることになり、はじめは不安な事ばかりでした。しかし、キャリア形成カリキュラムにより、仕事の基礎となる部分を時間をかけて教育してもらい、仕事をおぼえるスピードや理解力を身につけることができました。

(部品課/男性/40代)

キャリア形成支援の取組をはじめたきっかけ

社長(私)自身の過去の体験や経験の思いがあり、年功序列の社内制度の見直しや、個々の評価を公平にしたかったからです。